

五竜岳&鹿島槍ヶ岳山行報告

【山行日】2020年 8月 8~10日(土~月)
【集 合】岩舟支所P AM 3:30
【費 用】マイカー1台 : 33,600円
【メンバー】CL:鈴木 SL齊藤 清水、関、鶴見
8日 曇り 岩舟支所を出発し、八方池山荘から唐松頂上山荘経由で五竜山荘へ
岩舟支所P3:30=八方ゴンドラ駅P6:10/6:30++
八方池山荘 7:00/7:15~八方池 8:15/8:30~扇雪溪 9:30/9:40~唐松頂上山荘 10:15/10:35~鞍部 11:30/12:00~五竜山荘 13:15



五竜岳から鹿島槍ヶ岳への縦走コースを歩きたいとリクエストがあったが、古希を迎えた我輩は体力的に無理と断った。しかし、どうしても歩きたいとの熱意に押され、今回の難コースを歩く計画を立てた。トレーニング山行で日光白根山や岩菅山等に登り、古賀志山の中尾根コースでクサリ場のトレーニングを重ね万全を期して臨んだ。八方ゴンドラ駅の駐車場に着くと、車は10台位しか止まっておらずすんなり駐車できた。チケット売り場も人が無く、並ぶことなくスムーズに購入する。コロナの影響か、



例年と比べると登山者や観光客が異常なほど少ない。ゴンドラも並ぶことなく乗り、2本のリフトをスムーズに乗り継ぎ八方池山荘に着く。トイレを済ませ、ストレッチを十分に行って出発する。いつものようにお花が綺麗な巻道コースに行くことにする。晴れては無いが空は明るく、お花畑の花は良く見える。シモツケソウやヒメシャジン、ハクサンフウロやウメバチソウなどが目を楽しませてくれる。ミヤマママコナの花に「ママとマが3つ並ぶんだね」と感心していた。ベンチが並ぶ休憩所で休憩し、衣服調整と水分を補給する。

この先少し登った所が第2ケルンで、八方ケルン、第3ケルンと続く。ガスで八方池が見えないので、稜線沿いに行くとガスが晴れ、右下に八方池が姿を現す。休憩を取り八方池を眺めながら果物を食べ、白馬鎗ヶ岳が姿を現すのを待つ。うっすらとシルエットが見えるようになるが、山全体の姿が見えることは無かった。諦めて出発し尾根を進むと大きなダケカンバ林の下ノ樺、さらに登ると上ノ樺のダケカンバ林を抜けて行く。トラバース道になると左側の斜面がお花畑で、ミヤマキンポゲやシモツケソウ、ハクサンフウロ等が見事だった。岩場の登りを超えた先に扇雪溪があり、大勢の登山者が休憩している。我々も休憩し、雪溪を見ながら果物や菓子を食べてエネルギーを補給する。北アルプスデビューのお二人は、真夏の雪に感動し雪溪をスマホで撮っていた。ここから急坂を登った所が丸山で、白馬三山や不帰ノ嶮の眺めが素晴らしい所だが、ガスで見えないので通過する。ここからは主稜線を歩くようになり、一旦左に巻くように進み右に登り返してヤセ尾根進むと唐松岳頂上山荘に着く。山荘は西側からの風が強く、休憩場所を探すのが風を避ける場所が無い。



女性達は山荘のトイレを借りたが、待つのも辛いくらい風が強かった。山荘の食堂を借りようとしたが、



入口に「宿泊者以外は食堂の利用はご遠慮ください」と張り紙に書かれている。仕方が無く、女性達が戻ったら五竜山荘に向かって出発する。少し登って下りに入ると牛首の岩場が現れる。赤茶色の岩はもろく、浮石も多いので慎重に下って行く。クサリが横に付いているが、付いている位置が下過ぎて何の用も足さない。相変わらず風が強いが山荘付近よりは弱く、歩くのに支障は無い。ヤセた岩稜のクサリ場は、一步一步慎重に足を置き落石をしないよう注意しながら通過する。大黒岳の岩峰を過ぎ、風が当たらない場所を見つけ、ここでランチタイムとする。お湯を沸かしそれぞれが持って来たカップ麺

やスープを作り、おにぎりをいただく。お茶を飲んだら後片付けして出発する。明るい砂礫の斜面に変わり、歩き易くなり気持ちも楽になる。ここら辺からは正面に五竜岳の雄姿が望めるが、今日は雲の中に姿を隠していた。白岳との鞍部はダケカンバやトウヒの灌木帯になり、雪が多いので太く背丈が低いのが特徴だ。鞍部から白岳への長い登りが始まる。

ハイマツ帯の広い斜面は、ジグザグに折れながら高度を稼いで行く。遠見尾根への分岐の左奥が白岳で、少し下った鞍部に五竜山荘がある。ところが、白岳を過ぎると雨が降って来て、目の前に五竜山荘を見ながら濡れてしまった。

五竜山荘に着き受付をするが、コロナの影響で全員の名簿を書いて提出する。

受付を済ませ部屋に案内されて驚いた。

2部屋与えられ、女性は22人部屋に3名で男性は20人部屋に2名とデスタンスをとり過ぎだ。

濡れた物を乾燥室に干し、着替えて荷物を整理した

たら食堂に移動し宴会が始まる。最初はビールで始まり、次からS藤さんが担いできた焼酎になり大いに盛り上がる。5時から夕食なりカレーライスをいただき、我輩は直ぐに床についた。皆さんは夕日を見に外に行ったようだが、大声で話をして山荘の方からイエローカードを出されたたと言っていた。

9日 雨&強風 雨と強風の為五竜山荘で天気のリcoveryを待ち、五竜岳に登り、クサリ場が連続するG4・G5を通過し、北尾根の頭から口ノ沢のコルを経由しキレット小屋へ

五竜山荘 10:00～五竜岳 11:00/11:20～北尾根ノ頭 12:50～口ノ沢のコル 13:10～キレット小屋 14:15



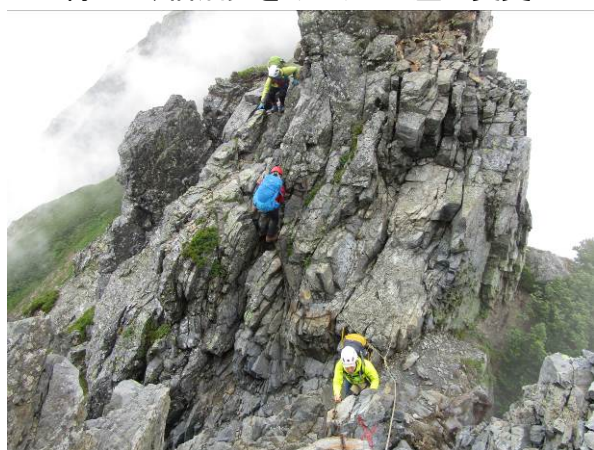
朝3時に起床し4時出発の予定だったが、外を見ると風雨が強く天気が良くないようだ。雨風が強い中ヘッドランプでの行動は危険なので、とりあえず5時まで出発を遅らせる。5時になっても状況は変わらず、ぎりぎりの6時まで様子を見ることにした。朝食弁当を食べたりして時間をつぶすが、待つのは時間を持て余した。

6時に出発と言うことで、レインウエアーを着て玄関前に集合しストレッチを始める。我輩がトイレに行きたくなり、外用のトイレに行くと風がハンパではない。

戻って「この風では危険なので部屋に戻り様子を見ます」と言うと、皆さんからも山岳警備隊の方から「危険な

ので出発は見合わせるように」と言われたという。部屋に戻り今後の行動について作戦会議。

警備隊員の方の話では、天気は9時か10時になれば回復するとの事である。1案はここで9時か10時まで待って、宿泊先をキレット小屋に変更し3日目は10時間歩いて扇沢に下る。2案はキレット小屋の



予約が取れなかったら、風の影響を受けない遠見尾根を下り下山する。と云うことで皆さんの了承をいただき、受付に行きキレット小屋の予約をお願いする。五竜山荘とキレット小屋は同じ経営なので、山荘にお願いした方が予約を取りやすい。

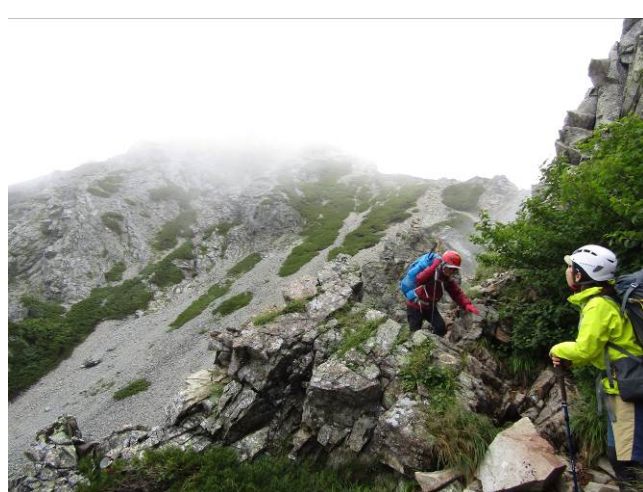
しばらくして受付に行くと、「とりあえず3畳の部屋に5人ならばOKです。キャンセルがあれば広い部屋に変更します」との事で予約をお願いした。スマホが繋がる外に出て、今日の宿泊先の冷池山荘をキャンセルし、次の日のタクシーの時間を変更する。9時に外の様子を見るが、まだ雨風共におさまらない。

10時まで待つとようやく雨は止むが、風は相変わらず強かった。これ以上待つとキレット小屋への到着が遅くなるので、10時に五竜岳に向かって出発する。登り始めて10分くらいの所で、3番手のS嬢が呼吸が出来ないと騒いでいる。いきなりの急登と強風で、過呼吸になったようで少し休んで水を飲むとおさまった。S嬢を2番手にしてゆっくり登り、G0ノ頭とG2ノ頭は黒部側から巻くようにして通過する。

岩に付けられたペンキマークを見失わないように登り、クサリ場を超えると頂上への分岐に着く。

ここに荷物をデポし、ヤセ尾根をほんの少し進むと五竜岳山頂に着く。山頂からの眺望は素晴らしく、明日登る双耳峰の鹿島槍ヶ岳が見えるはずだが、今日は雲の中で眺望は得られない。それでも北アルプスの百名山山頂に登った感動は大きく、皆さんの満足そうな笑顔が印象的だった。

記念写真を撮ったら分岐まで戻り、トマトや菓子を食べて休憩を取る。五竜岳から鹿島槍ヶ岳の間が今回のコースの核心部で、ガレ場やクサリ場等の難所が連続する。あらためて気持ちを引き締め、岩混じりのザレた急降下を降りて行く。落石を起こさないように慎重に、落ち着いてゆっくり下って行く。長いクサリの岩場が現れ、雨上がりで濡れた岩を滑らないように慎重に下る。鞍部に近づくと前方に鋭く上がったG4ノ頭とG5ノ頭が現れる。G5ノ頭は黒い小岩峰群で、クサリ場や切り立った岩場が連続し緊張する場所だ。茶褐色のガレ場を通過し、ハイ



マツに囲まれた小ピークに立つ。時折ガスが晴れ下の谷まで視界が開け、稜線が見えると皆さんから歓声上がる。後ろを振り返ると今降りてきた荒々しい岩峰が望め「ウワ～あれを降りて来たんだ！！」と驚いていた。ハシゴ伝いに登ったピークが北尾根ノ頭で、ここからは歩き易いハイマツ帯の山腹を口ノ沢の科尔へ下る。ここで休憩し、風も弱くなり陽射しも出て、皆さんも笑顔で行動食を食べていたが山の天気は分からない。

誰もがもう大丈夫と思って歩き始めると、いきなり暗くなり雨が落ちてきた。レインウエアーを着て歩くが、急な岩場が連続し濡れた岩場を慎重に登る。立ちはだかる岩峰を越え、岩混じりの沢状の窪地を急降下し科尔に降りる。そこからピークを越え、

クサリ伝いに下って行くと鞍部に建てられたキレット小屋に着く。雨は止んでいて、小屋の前でレインウェアを脱ぎ受付を済ませる。受付で「キャンセルが出たので7畳の部屋に変更しました」と言われたが、10枚の布団が敷かれ間を空けてゆったり寝られる。小さい小屋だが綺麗な小屋で、皆さんも気に入ったようだった。濡れた物を乾燥室に干し、着替えたら自炊室に移動して宴会が始まる。明日のロングコースに備えて、ビールとワンカップ1杯で終わりにする。5時から夕食になり、ハンバーグを美味しくいただいた。小屋の前は剣岳の絶好の展望台になっており、夕日に剣岳のシルエットがとても綺麗だった。夕日ショーを楽しんだら部屋に戻り、明日の準備をして早めに床についた。

10日 曇り後晴れ 難所の八峰キレットを通過し、鹿島槍ヶ岳北峰&南峰に登頂し、冷池山荘から爺ヶ岳に登り、種池山荘から柏原新道を下り扇沢へ下山し岩舟支所へ

キレット小屋 5:00～北峰分岐 6:30～北峰 6:45/6:55～北峰分岐 7:10～鹿島槍ヶ岳南峰 7:40/8:00～冷池山荘 9:10/9:20～爺ヶ岳 10:30/10:50～種池山荘 11:20/12:00～柏原新道登山口 14:00/14:15＝八方ゴンドラ駅 P15:00/15:10＝八方温泉 15:20/16:20＝岩舟支所 P20:10

4時起床、3日目の朝をキレット小屋で迎える。皆、良眠された様子でさわやかな表情。入山日より高度障害で不眠と頭痛が続く私は、だるい体に活を入れる。荷造りをして朝食のパンをそれぞれに食し、



さて3日目の天気はどうかと空を仰ぐ。今日は朝から天気が回復し、2日間の残念な思いが払拭されるはずであった。しかしキレット小屋の遥か前方に、昨夕姿を現した剣岳は雲の中。空は斑に雲におおわれており、回復が遅れているようだ。今回の山行は、唐松岳から見た五竜・鹿島槍の稜線に魅了され制覇を誓った日から一年、ずっと会いたかった稜線だから、せめて今日だけでもその全貌を臨ませてほしいと天に願いを掛ける。

5時出発、今日は10時間のコースで15:30頃扇沢の登山口に到着予定。長い一日と自分との闘いは、いきなりの急登から始まる。程なく、左の空に

雲の隙間から赤光線が走り、雲をオレンジと赤に染めていき、周囲のブルーグレーの雲とのコントラストが美しい日の出を迎えようとしていた。心と眼をその美しい空に奪われそうになる気持ちを抑えながら、健脚組のスピードについて行かなくてはと目の前の岩陵に飛びついていく。そして、いきなりの鎖場と岩だらけの急な下り、鉄梯子でさらに下り、岩と鎖の連続に緊張と冷や汗。これが、あの有名な八峰キレットだ。しかし、昨日の雨の中の濡れて滑る岩峰のG4,G5などを思えば、岩が乾いているだけありがたい。それにしても、今回のメンバー、鎖場や岩稜の急こう配ももろともせず、コースタイムよりはるかに速いタイムで歩いてしまい、臆病な私はついて行くのが精一杯だ。なかなかガスが晴れない中、殆ど休憩も取らず鹿島槍ヶ岳の北峰を目指す。分岐に到着し、ザックを置いて、いざ北峰へ。ガスの中の登頂は百名山なのに感動が今一つで残念だったが、記念撮影をして足早にあとにし分岐に戻る。ここから吊尾根へと進む中、ジャコウ草、ハハコグサ、イワオオギ、トリカブト、アザミなどが一面に広がるお花畑にしばし癒される。

再び岩場の急斜面を頑張って登ると鹿島槍ヶ岳南峰に到着。双耳峰であるこの山の眺望はどんな風景であったらうか。しばし休憩し、みかんなどを頂きながら、ガスが晴れるのを期待して少し時間を取る。



再び岩場の急斜面を頑張って登ると鹿島槍ヶ岳南峰に到着。双耳峰であるこの山の眺望はどんな風景であったらうか。しばし休憩し、みかんなどを頂きながら、ガスが晴れるのを期待して少し時間を取る。

一瞬でいいから晴れてほしいという願いは天に届かず、南峰をあとにする。岩稜の緊張からしばし解放され、ゴロゴロした岩を歩くと小さなピークが左手に見えたが、登頂はせずそのまま進むと、向かい側



から来た青年に「登頂したら、名前を教えてください」と図々しくもお願いする。青年は「布引岳です」と大きな声で教えてくれた。本当に好青年。ガスの中のお花畑に心を和ませながら、ふと気が付くと右に広がる広大な黒い岩の斜面。何岩なのか？途中、ひっそりとキヌガサソウが凜とした佇まいで咲いていた。さらに下ると、ガスが少しずつ晴れてきて、爺が岳へと向かう稜線が時々見え隠れする。下の方で、ライチョウがいたという声が聞こえた。そのあたりまで行くと、もうその姿はなかった。歩きやすい山道になり、皆あたりを見回す余裕が出てきた。ガスが少しずつ晴れて来

て、そのたびに皆「わー」と感嘆の叫びを上げる。程なくして、爺が岳へ向かう稜線の全貌が見え、待ちに待ったこの瞬間に「オー」とまた感嘆の声が止まらない。

しかし、振り返ると鹿島槍ヶ岳は山頂がガスに覆われたまま。いつか晴れるだろうと、この時は誰もが思った。ウサギギク、ハクサンフウロ、花の咲き終わったチングルマなどが饗宴するお花畑を横目にしながら、高山植物の愛らしさに癒される。そして、昨日泊まるはずだった冷池山荘にたどり着いた。

トイレとおやつを食べて少し休憩したら、今回三座目の爺が岳を目指して出発する。樹林帯から少し登ると見晴らしの良い冷池乗越に出た。振り返ると、鹿島槍ヶ岳の北峰はまだガスの中で、歩いてきた軌跡の全景はまだ見ることはできない。KSさんとOSさんは、今回アスプスデビューの記念すべき山行だから、何とか絶景の全貌を見せてあげてほしいとひたすら心で念じるものの、高度で寝不足と食事が進まない私のパワーは天には届かず悲しくなる。それでも、西側に見える、針ノ木岳、立山連峰から剣岳などの雄大な風景に、皆感動する。こちらも、山頂付近のガスがあと少しで消えそうである。爺が岳への道のりは、歩きやすくな



かな稜線だが、結構長く感じるのは足の疲れがあるせいかも知れない。双耳峰だが、北峰はパスして、南峰を目指す。やがて、展望最高の南峰に到着。立山連峰から剣岳はガスがすっかり消え雄大な景色に再び感動の嵐がやまない。鹿島槍ヶ岳の北峰は依然ガスの中、また会いに来られることを願いながら、レンズに収まらない雄大な絶景のシャッターを切る。これから向かう稜線の中にある種池山荘も風景の中に溶け込んでいる。どこを見ても飽きない風景、もう一泊して、この風景に一日抱かれていたくなる。さて、種池山荘のピザを目当てに、もうひと頑張り。ここは岩場もなく絶景を見ながら楽しく緩やかな下り、こういう道



は大好きだ。山荘につくと早速CLがピザを注文してくれる。待つこと10分、途中トイレに行っている間に皆ピザを食べ終わっていた(笑)。ちょっと冷め加減のピザも美味しかった。これが今日の昼ごはん。期限切れのジュースを格安で手に入れ、柏原新道を通り扇沢の登山口へと向かう。

途中のケルンで休憩しただけで、急坂もCLのスピードは衰えず、昨年の槍を思い出させる高速参勤交代のような下山にて、予定時刻よりかなり早い14:10に到着。タクシーの時間も1時間早めてもらったので、程なく到着し、ゴンドラ駅へと向かう。そして、八方温泉で疲れを癒し帰路に向かい、五竜岳、鹿島槍ヶ岳、2泊3日の山行は無事終了となる。

追記

CL様: 今回の山行は、最初の2日間、風雨に見舞われましたが、特に2日目のCLの判断は素晴らしく、天候を読んで危険を最大限回避する計画と変更し、宿泊先を変え、なんとか後立山連峰を縦走させていただくことが出来るようにご配慮頂きました。昨年からのこの稜線へ憧れ、縦走したいという願いを無事に叶えさせて頂き、本当に感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。

参加された皆様へ: OSさん、沢山の荷物を持って頂き、いつも後方から皆のことは見守り、気遣って頂きありがとうございました。KSさん、技術と体力とも素晴らしく、自分の体と向き合いながら山に向かう姿は、故障を抱えながら山に向かう私にとって良きアドバイザーであり、いつも頼りにさせて頂き感謝しています。ヤングKSさん、若くてフレッシュなあなたのパワーに引っ張られ、楽しく3日間乗り越えることが出来ました。ありがとうございました。

一番体力のない私が頑張ることが出来たのは、本当に皆さまのおかげです。皆さま、お世話になりありがとうございました。

H・T 記